

# ベイ★キッズ

横浜子育て応援マガジン

ベイ★キッズ

FREE  
2025 WINTER  
vol. 055

音楽とともに

02 | 生演奏を楽しもう！  
ママの健康応援プロジェクト

03 |  
まちすき  
COCOHE  
内田奈津子さん  
身近でできるSDGs  
神奈川県立地球市民かなが  
わプラザ  
動物園に会いに来てね  
ミナミコアリクイ  
パパと遊ぼう  
冬遊び編

04 |  
こどもと一緒に楽しもう  
音楽・演劇ホール

### Credit

スタッフ: 東恵子 船本由佳 本田真弓 木下菜穂  
ベイ★キッズ みなとくらす  
デザイン: 川本智子  
協力: あそびい横浜  
公益財団法人 横浜市緑の協会 シュフレ協会

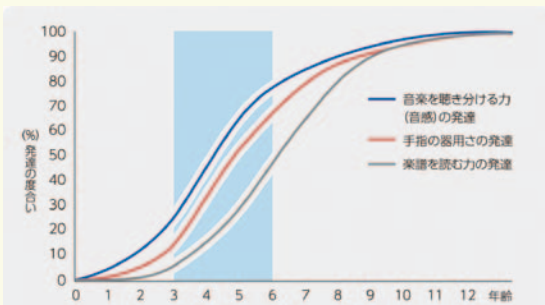


写真: 菅原康太

● 編集・発行/ベイ★キッズ編集部[NPO法人シャーロックホームズ] 〒220-0002 横浜市西区南軽井沢18-1-110 TEL.045-324-5033 FAX. 045-548-4514  
http://baykids.jp info2@baykids.jp \* 情報提供や広告掲載に関するお問い合わせは上記まで。 \* 紙面の無断転載を禁じます。

## Q. 子どもに音楽の楽しさを伝えるためになにかから始めたらいいのでしょうか

子どもがストレスを感じることなく音楽を学ぶためにはいつどのようなことを学ばいいか。ヤマハ音楽研究所では、その目安にするため、子どもの能力が年齢とともにどう発達していくかを示した「発達曲線」を海外を含む近年の研究論文33本を参考にしまとめました。音楽に必要な3つの力があり、それぞれ発達曲線が違います。



音楽に関する能力は「音楽を聞き分ける力(音感)」「手指の器用さ」「楽譜を読む力」の順に発達します。曲線によると、音楽を聞き分ける力(音感)は3~5歳で、手指の器用さは3~7歳で、楽譜を読む力は5~8歳で急成長し、その3つの能力は全て9歳まで上昇するとわかります。

### ● 音楽を聞き分ける力(音感)

音楽にかかわるさまざまな要素を認知する力のこと。音楽を学ぶためには、リズム、メロディ、ハーモニーの音楽の3要素や、楽曲の形式や構造、楽器の音色を聞き分ける必要があります。音楽を聞き分ける能力は1~2歳頃から少しずつ発達し始め3歳頃から5歳頃にかけて急激に発達していくことがわかります。

### ● 手指の器用さ

鍵盤楽器などを演奏するために必要な能力です。モノに手を伸ばす、ハンマーでペグをたたく、ブロックを同じ形の穴に入れるといった操作や神経系の論文を根拠に発達曲線を策定しました。

発達曲線からは手指の器用さは3歳頃から7歳頃にかけて急激に発達していくということがわかります。3歳頃から鍵盤に触れ始め、7歳頃までは無理をせず徐々に演奏の難易度を上げながら学習していくことが子どもにとって楽しくストレスのない鍵盤学習の方法だといえます。

### ● 楽譜を読む力

楽譜が読めるかといったことに加え、リズムの再現や聴いた音を覚えておく力についても考慮しています。曲線から、楽譜を読む力は3歳頃から少しずつ発達し始め、5歳頃から8歳頃にかけて急激に発達していくことがわかります。つまり、3歳頃から楽譜に触れ始め、その後8歳頃にかけて段階的に楽譜の情報量を増やしながら学習することが子どもたちが無理なく楽しく楽譜を読む力を身に付けていく方法であるといえるでしょう。



音楽を好きになって欲しいけど何歳から始めたらいいのかな  
ヤマハ音楽研究所の職員さんに聞きました。



音楽を好きになれば人生が豊かに

## Q. なぜこのような研究をおこなったのですか？

ヤマハミュージックスクール(ヤマハ音楽教室から2024年に改名)はプロを育てるのが目的ではなく、音楽を好きになってもらい一生楽しんでもらいたいと考えています。発達に合わない教え方をして音楽をストレスに感じてしまわないように、そのときの成長に応じてタイミングよく音楽を学んでいく「適期教育」を基本としています。ヤマハ音楽研究所は、音楽が人間生活に果たす役割を明らかにすることを目指し、内外の専門家と協働して、教育・心理・医学・工学など科学的な視点から音楽に関する研究を1990年から進めています。研究を音楽教育の現場に還元し、報告をホームページに掲載し、多くの方々に広く提供しています。主な研究テーマは乳幼児と音楽、児童と音楽、音楽と心身との関わりなどです。最新のテクノロジーと音楽の可能性などについても研究しています。



## Q. 音楽を好きになって欲しい。親はどうしたらいいですか？

保護者ができることは環境づくりです。一緒に聴いたり歌ったり音楽的な環境をつくってあげるのがいちばんです。まずは聴くこと。聴くことによって音感が育ちます。まず最初は聴いて、その後歌う、ちゃんと歌えるようになってから弾く、弾けるようになってから楽譜を見るという段階です。3つの能力は9歳までは発達していきますので、その中で無理なく楽しくやることを意識してください。

## Q. 生の音楽を聴くことは大切ですか？

生演奏を聴くことには、音楽を聴くだけではないさまざまな要素が含まれています。例えば、演奏する姿を視覚的に感じる、演奏家の息遣いを感じる、生の楽器から出てくる音の伝わり、ホールの響きや音響の心理的影響、大勢と一緒に聴くという行為、そうしたさまざまな点から録音の音楽を聴くだけではない効果が生演奏を聴くことからは得られると思われます。

## Q. グループレッスンの良さは？

幼児期のレッスンは、クラス皆で一緒に聴いたり歌ったり弾いたりすることを中心におこないます。小学生になるとアンサンブルなどの個人レッスンではできないことにも取り組みます。一緒に学ぶ仲間ができるということもよいことです。グループのレッスンが良いということはヤマハ音楽教室70年の歴史で裏付けがあり、皮膚感覚ではわかっています。グループレッスンが、非認知能力獲得にどのくらい関わっているのかなどが研究の最中です。

### Message

【お話を聞いた方】  
ヤマハ音楽振興会  
ヤマハ音楽研究所  
小川純一さん

乳幼児から学齢期の体験はとても大事だと思います。音楽を一度学ぶとその後の音楽を楽しむ力がすくすくつきます。小さい子どもたちに音楽に触れてもらい、そして一生音楽を楽しんでもらいたいです。